

ONKYO®

Integra

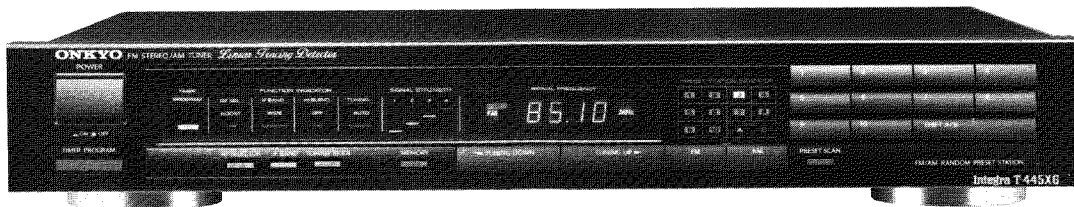
Instruction Manual

取扱説明書

お買いあげいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。
また、お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、製品保証書、
オンキョーサービス網一覧表とともに大切に保存してください。

シンセサイザーFMステレオ/AMチューナー

Integra T-445XG

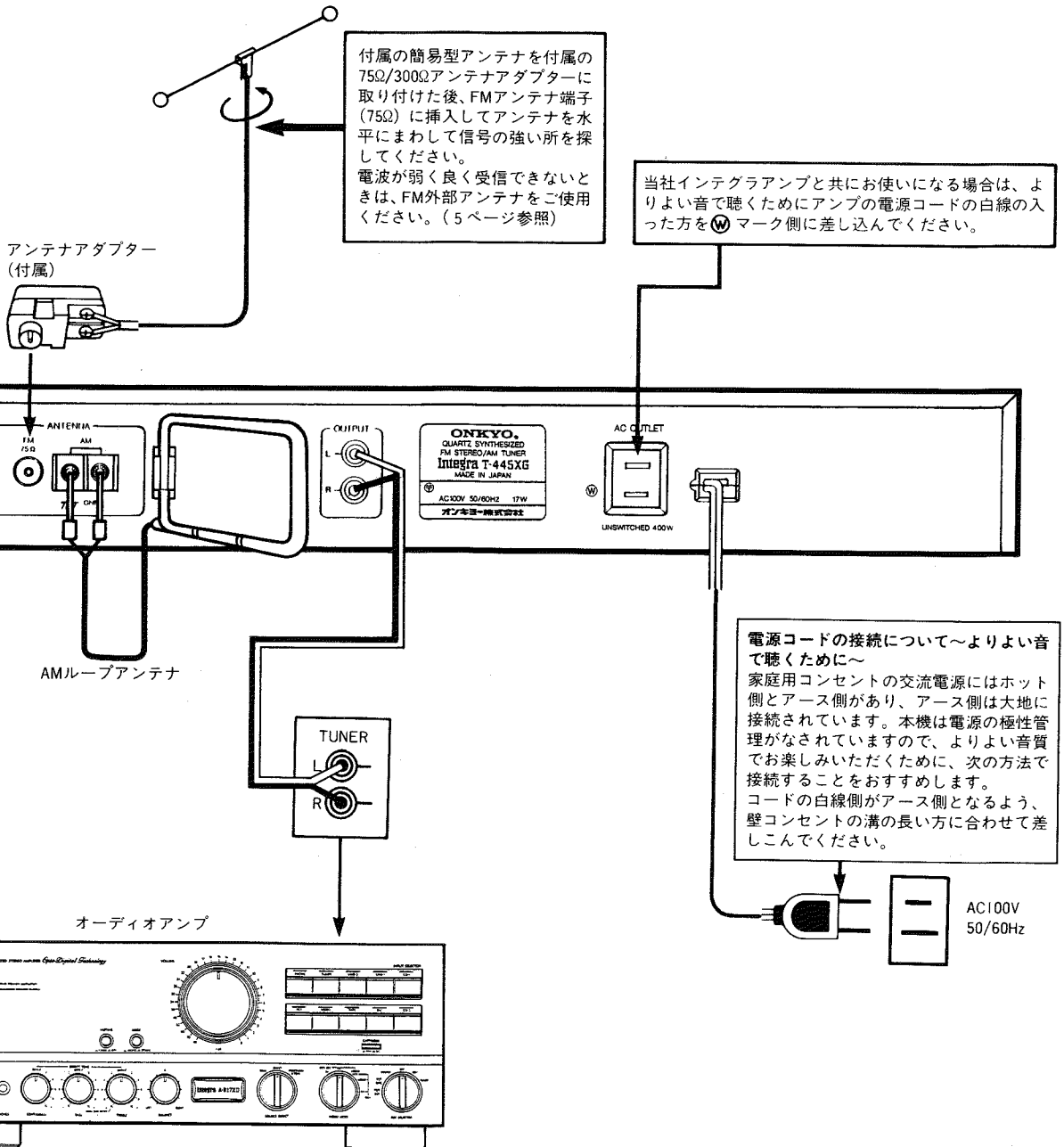
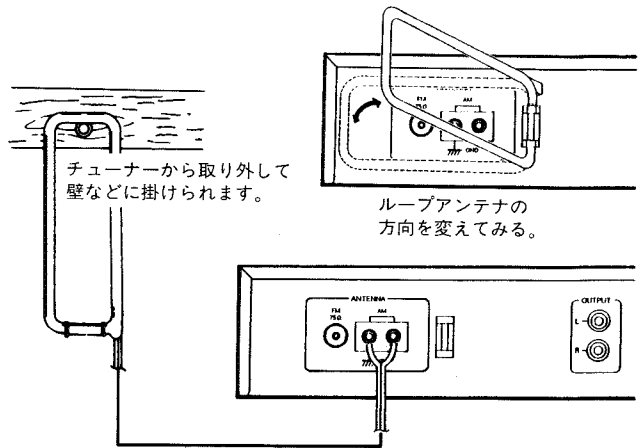


目次

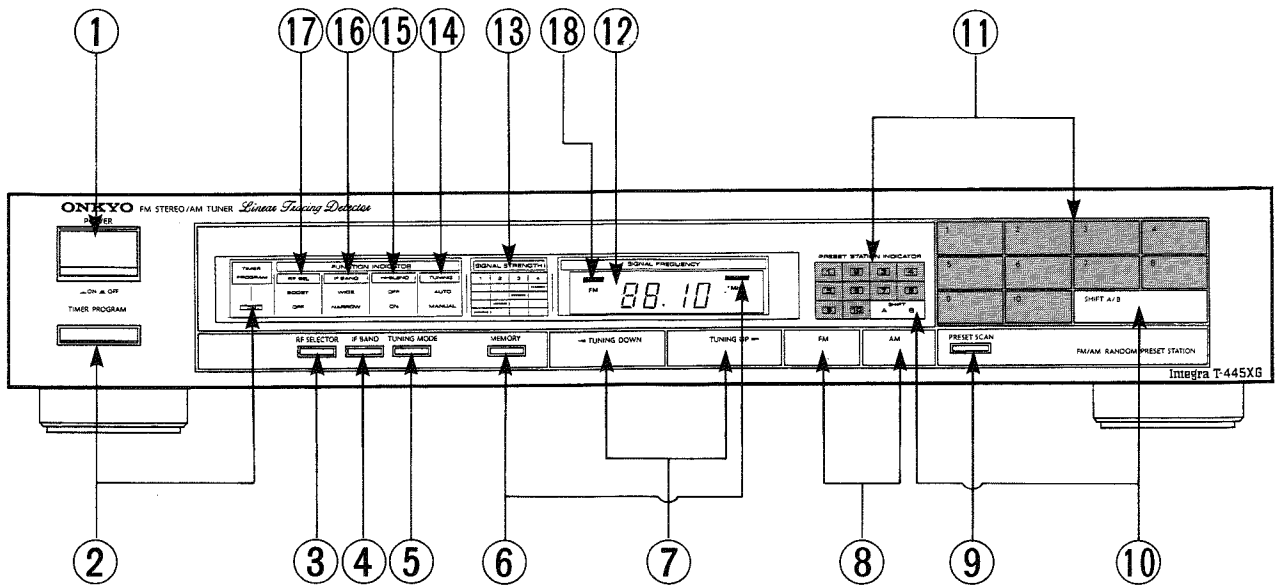
・接続のしかた	3
・各部の名称と働き	4、5
・アンテナの取り付けかた	5、6
・プリセットメモリーのしかた	7
・受信のしかた	8
・プログラムタイマー予約のしかた	9
・サービスマンをお呼びになる前に	10
・定 格	11
・アフターサービスについて	11

接続のしかた

AMループアンテナは方向を図のように変えられるとともに、本機よりはらずして壁などにかけることができます。AM放送を選局し、良好な受信ができるように方向、設置場所を変えて最良点にセットしてください。放送局によっては最良の方向が異なることがあります。電波が弱く、このアンテナではよく受信できないときはAM外部アンテナをご使用ください（6ページ参照）。



各部の名称と働き



① パワースイッチ (POWER)

ON(■)で電源が入り、OFF(■)で切れます。

② プログラムタイマーボタン(TIMER PROGRAM) およびインジケータ

このボタンとステーションボタン⑪を使ってプログラムタイマーを予約します。詳細は、9ページ「プログラムタイマー予約のしかた」の項をご参照ください。

③ FM RFセクターボタン (RF SELECTOR)

高周波増幅段を切換えるボタンです。押し、RFセクターインジケータ⑦の「BOOST」が点灯すると受信感度が良くなります。電界強度が非常に強い近くの局を受信するときは、もう一度押し「OFF」を点灯させてください。

※ 通常は、「BOOST」の位置にしておいてください。

④ FM IFバンド切換ボタン (IF BAND)

「WIDE」で受信していて混音が気になるようなときは、押しインジケータ⑥の「NARROW」にしてください。帯域幅が狭くなりますが、選択度が良くなり混音、ビートなどの妨害排除能力が良くなります。

FM受信でIF(中間周波数増幅)部の帯域幅を狭くすると、受信周波数に非常に近い周波数で送信している放送局による妨害電波を排除することができます。すなわち選択度を良くします。例えば、FM東京80.0MHzの電波の弱い場所で送信周波数の近いNHK宇都宮80.3MHzとの混音を起こすようなときがあり、このようなときはIF部の帯域幅を狭くすることにより受信性能を良くすることができます。

⑤ チューニングモード切換ボタン (TUNING MODE)

放送局を選局するときこのボタンを押してチューニングモードインジケータ⑭の「AUTO」と「MANUAL」を切換えます。「AUTO」が点灯しているときは、ミュート回路(FMのみ)とオートストップ回路が働きステレオ受信モード(FMのみ)の状態になります。「MANUAL」が点灯しているときは、ミュート回路(FMのみ)がOFFになりマニュアルチューニングおよび強制モノラルモード(FMのみ)の状態になります。

⑥ メモリーボタンおよびインジケータ (MEMORY)

押しと表示管の「MEMO」が点灯します。プリセットメモリーをするときに使います。詳細は、7ページ「プリセットメモリーのしかた」の項をご参照ください。

⑦ チューニングボタン (TUNING DOWN/TUNING UP)

放送局を選局するときに使います。「UP」のボタンを押すと受信周波数が高くなり、「DOWN」のボタンを押すと低くなります。

「UP」または「DOWN」を押し続けると周波数が連続して走査を始めます。チューニングインジケータ⑭の「AUTO」が点灯しているときは、放送の受信できる周波数で自動的に止まります。

⑧ FM、AM切換ボタン (FM/AM)

FM放送を選局するときはFMボタンを、AM放送を選局するときはAMボタンを押してください。

⑨ プリセットメモリースキャンボタン (PRESET SCAN)

プリセットステーションにメモリーしている局を確認するとき、このボタンを押すと自動的に5秒間ずつステーションを順次呼び出します。

⑩ シフトボタン (SHIFT A/B) およびインジケータ

ステーションボタン⑪を切換えるボタンです。押して「A」のインジケータが点灯するとA側の1~10のステーションが働き、もう一度押して「B」のインジケータが点灯するとB側の1~10のステーションが働きます。

※ A、Bを切換えることにより20局のメモリーができます。

⑪ ステーションボタンおよびインジケータ

放送局を記憶させておくと、これらのボタンを押して放送局を受信することができます。

⑫ 周波数表示部 (SIGNAL FREQUENCY)

FM：76.1~89.9MHz、AM：522~1611kHzの範囲で周波数が表示されます。

⑬ シグナルインジケータ (SIGNAL STRENGTH)

アンテナの入力信号の強さにほぼ比例して点灯します。多く点灯するように、アンテナの方向を決めてください。

⑭ チューニングモードインジケータ (TUNING MODE)

チューニングモード⑤の状態を「AUTO」、「MANUAL」で表示します。

⑮ FMオートハイブレンドインジケータ (HI-BLEND)

オートハイブレンド回路の「ON」、「OFF」は受信信号の強さによって自動的に切替わります。「ON」が点灯しているときはオートハイブレンド回路が働いていることを表し、「OFF」が点灯しているときはオートハイブレンド回路が働いていないことを表しています。
※ 受信信号が弱いときは「ON」になってステレオノイズを低減させます。

⑯ FM IFバンドインジケータ (IF BAND)

IFバンド切替ボタン④の状態を「WIDE」、「NARROW」で表示します。

⑰ FM RFセレクトインジケータ (RF SELECTOR)

RFセレクトボタン③の状態を「BOOST」、「OFF」で表示します。

⑱ FMステレオインジケータ (STEREO)

FMのステレオ放送のときに点灯します。

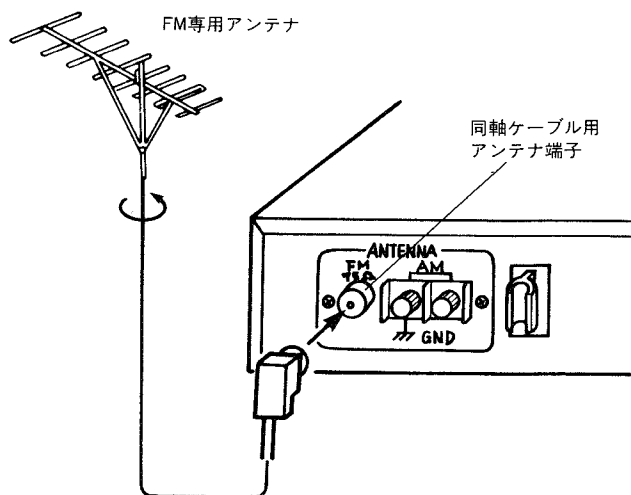
アンテナの取り付けかた

FM放送を受信するとき、いかに高性能なFMチューナーを使っても正しいアンテナの使い方をしなければ、せっかくの高級チューナーの性能は発揮できないことになります。FM放送の受信には正しいアンテナの選択と使い方が重要です。

電波は送信所より距離が遠くなるほど弱くなり、また光のように山や大きな建物にあたって妨害されたり反射されたりします。ですから山の陰や、ビルの谷間、鉄筋建造物の中などでは送信所に近くても電波が弱くなったり、受信音に悪い影響を与えたりします。

このため周囲の状況や電波の強さなどに応じたアンテナを選んでご使用ください。

FMとTVが共通のアンテナケーブルをご使用のときは、お互いの妨害を避けるため、方向性分配器の使用をおすすめします。



同軸ケーブルをアンテナ入力端子に接続するときは付属のアンテナアダプターを6ページの図のように同軸ケーブルを加工してから取りつけて接続してください。

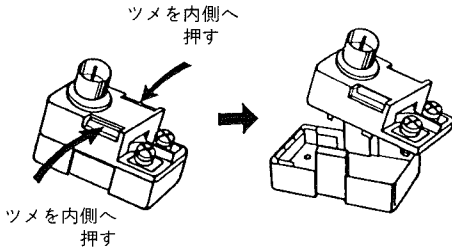
■外部FMアンテナを使用するとき

外部アンテナは、なるべく希望する方向から来る電波だけを受け取り、他の方向からの電波を受け付けけない方が混信やマルチパス、自動車のイグニッションノイズ等が少ないということになります。すなわち指向性が鋭いほうが望ましいわけです。

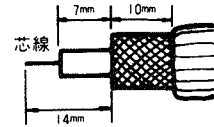
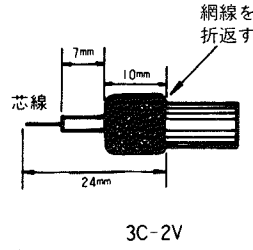
市場には3素子アンテナ、5素子アンテナ等多素子のアンテナが市販されていますが、一般に素子が多いほど指向性が鋭くなり受信する電波以外の妨害を受けにくくなります。

■アンテナアダプターの開け方

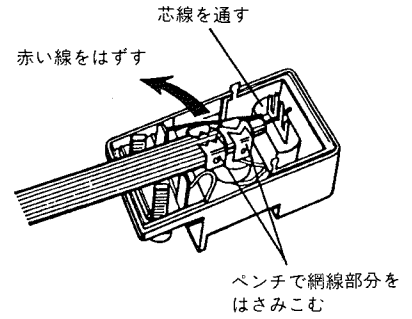
(1) 指先か⊖ドライバーでツメを内側へ押し、カバーを開けます。



(2) 同軸ケーブルを下図のように加工します。

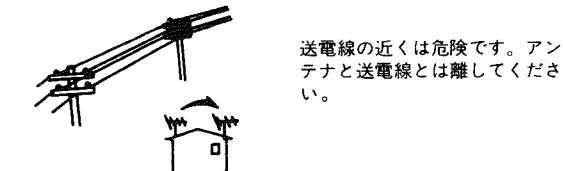
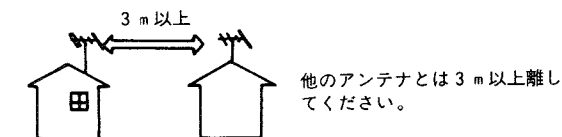
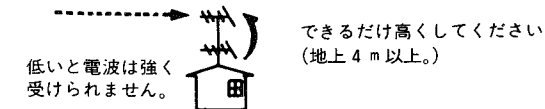
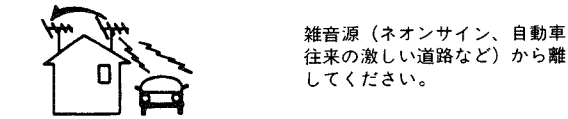
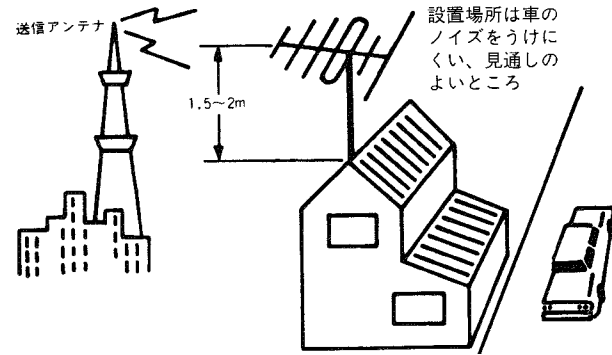


(3) 同軸ケーブルを75/300Ω アンテナアダプターにつなぎカバーをかぶせます。

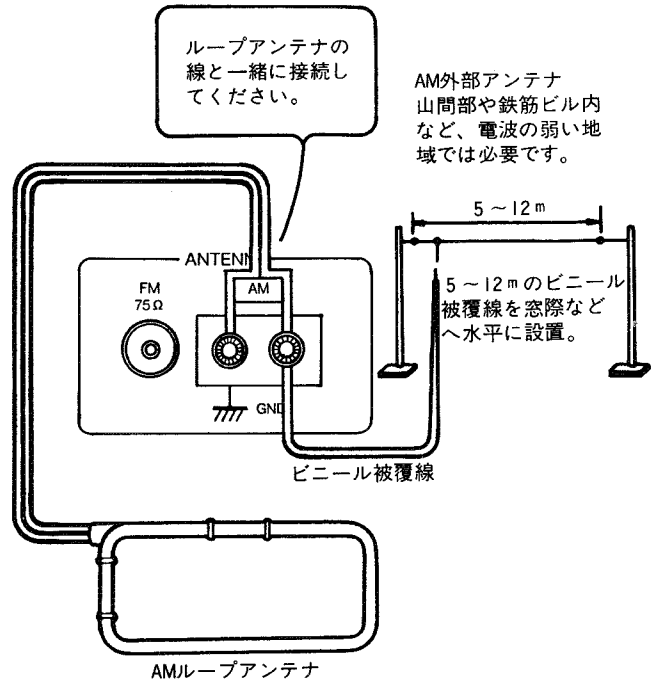


■FMアンテナの設置場所について

建物の陰にならず、FM放送電波が直接受信できる見通しの良いところに設置してください。



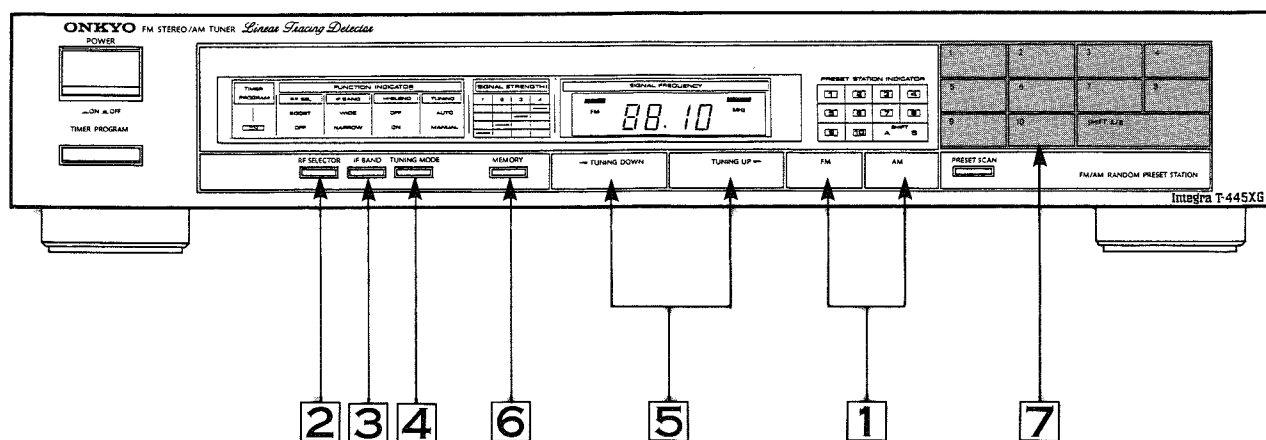
■AM外部アンテナの設置



プリセットメモリーのしかた

放送局の周波数をあらかじめ記憶させておくことをプリセットメモリーといいます。プリセットメモリー後は、ステーションボタンを押すだけで、希望する放送局を受信でき大変便利です。本機は、FM、AM合計で20局のプリセットメモリーができます。

■番号順に操作を行なってください。



- ① FM、AM切換ボタンで希望の放送バンドを選びます。
- ② FM RFセレクトボタンを押して「BOOST」を点灯させます。
- ③ FM IFバンド切換ボタンを押して「WIDE」を点灯させます。
- ④ チューニングモード切換ボタンを押して「AUTO」を点灯させます。
- ⑤ チューニングボタンの「DOWN」または「UP」を押して、プリセットメモリーをしようとする周波数までもっていきます。
- ⑥ メモリーボタンを押します。
- ⑦ メモリーボタンを押すと約5秒間、表示管の中のメモリーインジケーターが点灯しますので、この間に希望のシフトボタン(A/B)、およびステーションボタン(1~10)を押してください。
- ⑧ プリセットメモリーしたステーションナンバーと放送局名を覚えておくと、あとで選局するときに便利です。

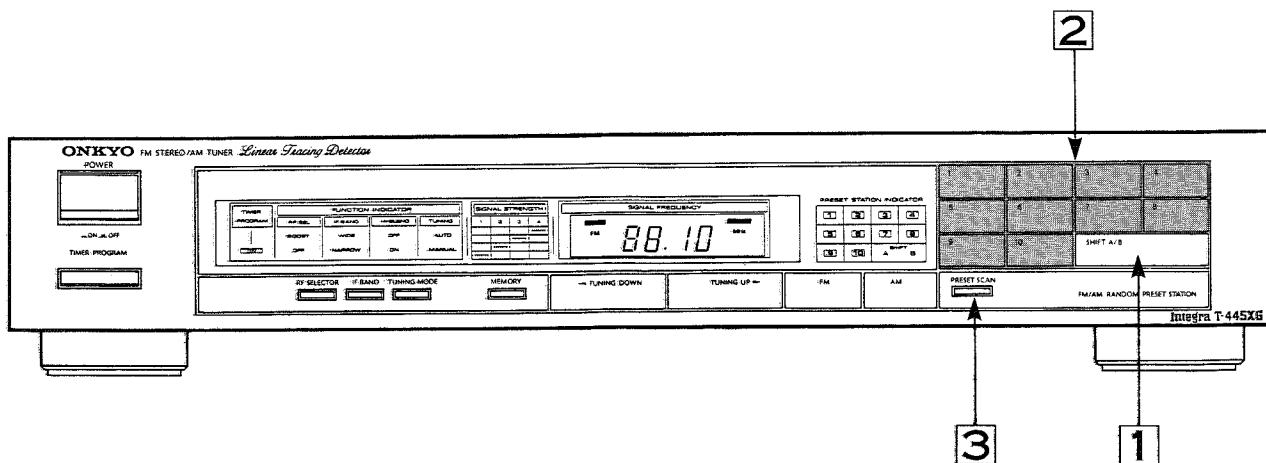
※ メモリーインジケーターが点灯中に、ステーションボタン(1~10)を押せなかったとき、または他のボタンを押してメモリーインジケーターが消えてしまったときは、もう一度、メモリーボタンを押したのちステーションボタンを押してください。押したステーションボタンのインジケーターが点灯し、表示周波数とそのステーションに記憶されます。これでプリセットメモリーの完了です。

ご注意

上記の操作で自動的にストップしないような弱い信号の周波数をプリセットメモリーしたいときは、④の操作のときにチューニングモード切換ボタンを押し、「MANUAL」を点灯させ「DOWN」または「UP」を押して手動で周波数を変えて放送局を受信してください。

受信のしかた

- プリセットメモリーした局を受信するとき
- 番号順に操作を行なってください。



- ① A側の「1」～「10」のステーションボタンの局を呼び出すときは「A」のインジケーターを点灯させ、B側の「1」～「10」の局を呼び出すときは押して「B」のインジケーターを点灯させます。
- ② 希望のボタンを押して局を呼び出します。
- ③ メモリーしている局を確認するとき押します。

- ・FM放送で電界強度が弱く、雑音が目についたり、ときどき音声がとぎれたりするとき、FM RF セレクターボタンを押して「BOOST」を点灯させれば感度が上がり受信することができます。さらにチューニングモードボタンを押して「MANUAL」を点灯させるとミュート回路がOFFされ受信できますが、ステレオ放送でもモノラルとなります。
- ・隣接局の混信妨害で、ピーという音が出たり音声がひずんだりしてご希望の電波がうまく受信できないときは、FM IF バンド切換ボタンを押して「NARROW」を点灯させれば混信が防げます。選局が終了したらオーディオアンプの音質、音量ツマミを調整してご希望の音でお聴きください。

■プリセットメモリースキャンでメモリーしている局を確認するとき

メモリーしている局を確認するとき「PRESET SCAN」を押すと5秒間ずつメモリーの内容を順次呼び出します。現在、プリセットステーションの内容を受信しているときは次のステーションから、そうでないときはステーション「1」から順次呼び出します。途中で止めるときは、希望のステーションボタンを押してください。

■プリセットメモリーしていない局を受信するとき

7ページ「プリセットメモリーのしかた」の①～⑤の項を順番に行なって放送局の周波数を捜してください。

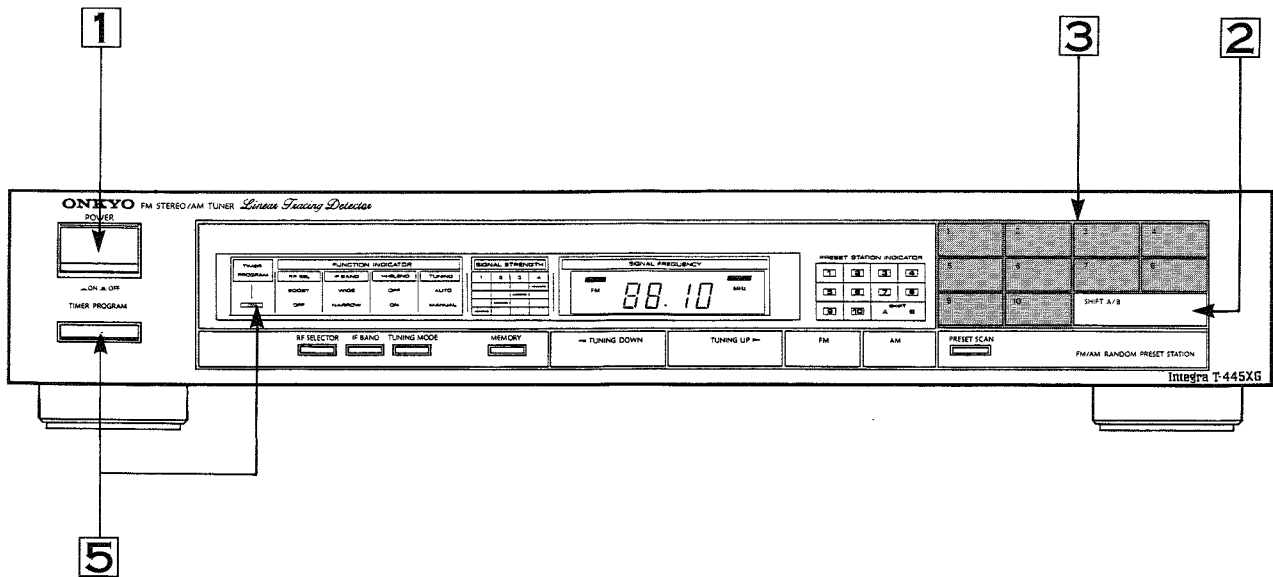
プログラムタイマー予約のしかた

タイマープログラムをONにすると、本機は電源のON—OFFによって受信局が自動的に切替わる構造になっており、オーディオタイマーと組み合わせると放送局を5局まで順番に切換えて録音したり、受信したりすることができます。

例えば

1. AM7:00～7:30 NHK—FM
2. AM8:00～8:15 FM—東京
3. PM0:00～0:30 FM—横浜
4. PM7:00～8:00 TBSラジオ
5. PM8:30～9:00 文化放送

と順に留守録音したり、受信したりすることができます。まず、本機および他のオーディオセットの電源コードをオーディオタイマーに接続してください。そしてタイマー録音を上記の例のプログラムでセッティングするには、下記①～⑥の手順で行ってください。



- ① チューナーおよびアンプの電源スイッチを「ON」にしオーディオタイマーを操作して放送受信ができるようにします。
- ② シフトボタンの「A」のインジケーターが点灯していることを確認します。「B」のインジケーターが点灯していればシフトボタンを押して「A」のインジケーターを点灯させます。
- ③ ステーションボタン「1」にNHK—FMの周波数をプリセットメモリーします。(7ページ「プリセットメモリーのしかた」の項を参照)
 ステーションボタン「2」にFM—東京の周波数を、
 ステーションボタン「3」にFM—横浜の周波数を、
 ステーションボタン「4」にTBSラジオの周波数を、
 ステーションボタン「5」に文化放送の周波数を、それぞれプリセットメモリーさせて受信できることを確認します。
- ④ オーディオタイマーを操作し、AM7:00—「ON」、AM7:30—「OFF」、
 AM8:00—「ON」、AM8:15—「OFF」、
 PM0:00—「ON」、PM0:30—「OFF」、
 PM7:00—「ON」、PM8:00—「OFF」、
 PM8:30—「ON」、PM9:00—「OFF」
 とセッティングします。

- ⑤ タイマープログラムボタンを押して「ON」を点灯させます。
 - ⑥ チューナーおよびアンプの電源スイッチは「ON」にしたままでタイマーにてセッティングした時刻に「ON」「OFF」できるようにオーディオタイマーを操作します。
- これでプログラムセッティング完了ですが留守録音をされるときは、カセットデッキを留守録音できるように操作しておいてください。

サービスマンをお呼びになる前に

本機が正常に動作しないときは、この表や添付の青いしおりを参考にしてお調べください。これらの処置をしても直らないとき、これ以外の症状のときは電源コードをコンセントから抜いたのち「お名前」「おところ」「電話番号」「セット型名」「故障状況」をできるだけ詳しくお買いあげいただいたお店、またはオンキョーサービスステーションまでご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
F Mステレオ放送のとき、モノラル放送に比べ「サー」というノイズが出る。	● F Mステレオ電波はモノラル電波に比べ、変調のしかたが異なるのでノイズが少し出る。	● アンプの高音調整つまみで高音部を下げてください。
モノラル放送、ステレオ放送とも雑音が多い。	● アンテナの設置場所や向きが不適当。 ● 送信所が遠い。	● 室内アンテナなら屋外アンテナにしてください。 ● アンテナの設置場所、高さ、方向を変えてみてください。 ● 素子数の多いアンテナに変えてみてください。
F Mステレオインジケータが点滅し、完全に点灯しない。	● アンテナの向きが不適当。 ● 送信所が遠い。	
音がひずんだり小さくなったりする。	● 電波の乱れ。 ● 近くを自動車が走っていたり、飛行機が飛んでいる。	
ステレオ放送で雑音が多く、ときどき音が出なくなる。	● アンテナの設置場所や向きが不適当。 ● 送信所が遠い。	
ステレオ放送で音にひずみが多い。	● 近くにビルや山がある。 〔送信所からの電波（直接波）とビルや山に反射した電波（反射波）との干渉によりマルチパスひずみが生じる。〕	
F M、A Mステーションボタンで選局し、周波数表示は出ているが音が出ない。	● 放送電波が弱い。	
A M放送受信時、雑音が入る。	● T Vがすぐそばにあり受信状態になっている。	● T Vの電源を切ってください。
電源を入れるたびに違う放送局を受信する。	● タイマープログラムインジケータが点灯している。	● プログラムタイマーボタンを押してインジケータを消してください。

定 格

	F M	A M
受信範囲	76.1MHz~89.9MHz	522kHz~1611kHz
実用感度 75Ω/IHF	0.9μV 10.3dBf (BOOST ON, MONO) 4μV 23.3dBf (BOOST OFF, MONO)	付属ANT 200μV/m
S/N 50 dB 感度 75Ω/IHF	2.0μV 17.3dBf (MONO)	
相互変調妨害比 ±1MHz/±2.5MHz	103dB/110dB (BOOST OFF) 88dB/90dB (BOOST ON)	
イメージ妨害比	90dB (BOOST OFF) 90dB (BOOST ON)	40dB (999kHz)
IF 妨害比 (83MHz)	100dB (BOOST OFF) 100dB (BOOST ON)	57dB (999kHz)
スプリアス妨害比	100dB (BOOST OFF) 100dB (BOOST ON)	
2信号選択度 (±400kHz)	60dB (WIDE) 85dB (NARROW)	選択度±10kHz 35dB
ひずみ率 MONO 400Hz STEREO 400Hz	0.0055% (WIDE) 0.15% (NARROW) 0.008% (WIDE) 0.4% (NARROW)	0.3%
ステレオ 1kHz セパレーション100Hz~10kHz	68dB (WIDE) 45dB (NARROW) 45dB (WIDE) 40dB (NARROW)	
A M 抑圧比	62dB (WIDE) 50dB (NARROW)	
キャプチャーレシオ	1.0dB (WIDE) 2.0dB (NARROW)	
S N 比	100dB (MONO) 90dB (STEREO)	50dB
周波数特性	20Hz~15,000Hz (+0.2~-0.8dB)	
キャリアリーク	-65dB	
アンテナインピーダンス	75Ω 不平衡	
出力電圧	500mV (400Hz、100%変調)	150mV (30%変調)
出力インピーダンス	1.9kΩ	
消費電力	17W (電気用品取締法)	
寸法	435W × 72H × 367.5D mm	
重量	4 kg	
付属品	ピンコード、簡易型FMアンテナ、AMループアンテナ、アンテナアダプター、取扱説明書、 オンキョーサービス網一覧表、製品保証書	

※定格仕様は性能向上のため予告なく変更する場合があります。

アフターサービスについて

- この商品には製品保証書を別途添付しています。
製品保証書は販売店でお渡し致しますから、所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
- 保証期間はご購入日より1年間です。
製品保証書の記載内容によりご購入販売店が修理致します。その他詳細は製品保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理については販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。
- 本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。
性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
- なお、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明のときはご購入の販売店か、オンキョーサービス網一覧表に記載のサービスステーションにお問い合わせください。

artistry in sound
ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社/寝屋川市日新町2-1 〒572

●東京オーディオセンター ☎03(251)7160 ●東京サービスセンター ☎03(861)8121 ●大阪オーディオプラザ ☎06(315)8330 ●大阪サービスセンター ☎0720(32)1616

Printed in Japan

SN-29341426 04-02-300-ASA